

令和6年（2024年）の八甲田山の火山活動

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報の状況、2024年の発表履歴

2024年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○ 2024年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～図8）

大川原監視カメラ及び地獄沼監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

10月17日から18日にかけて実施した現地調査では、前回（2020年7月）と比較して、地獄沼周辺や酸ヶ湯沢上流の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。また、地獄湯ノ沢では地熱域は認められず、酸ヶ湯沢上流と同様に硫化水素が引き続き発生していることを確認しました。

・地震や微動の発生状況（図9、図10）

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図11、図13）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

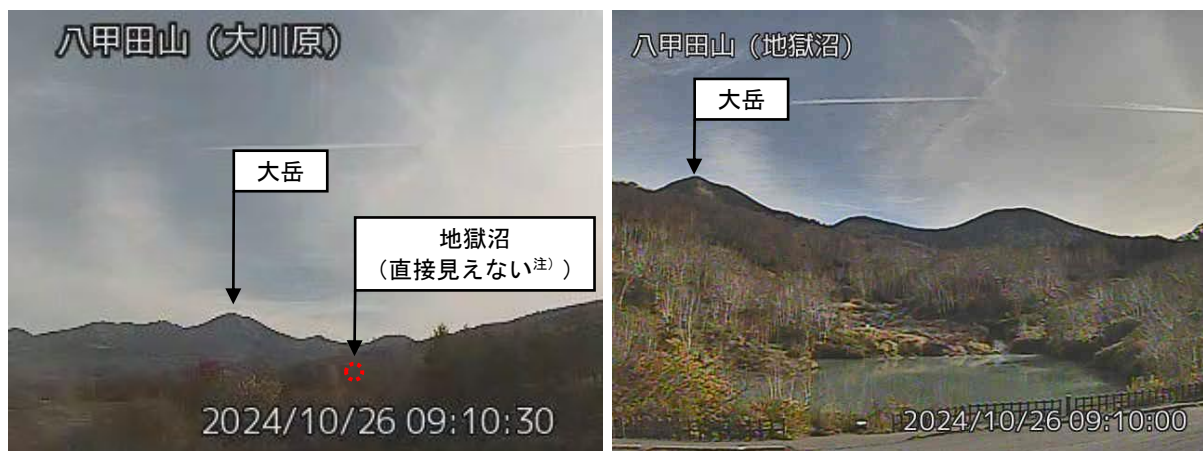


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺の状況（10月26日）

- ・左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像です。
- ・右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像です。
- ・注）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原では高さ100m以上のときに観測されます。
赤破線が地獄沼の位置を示します。

噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。

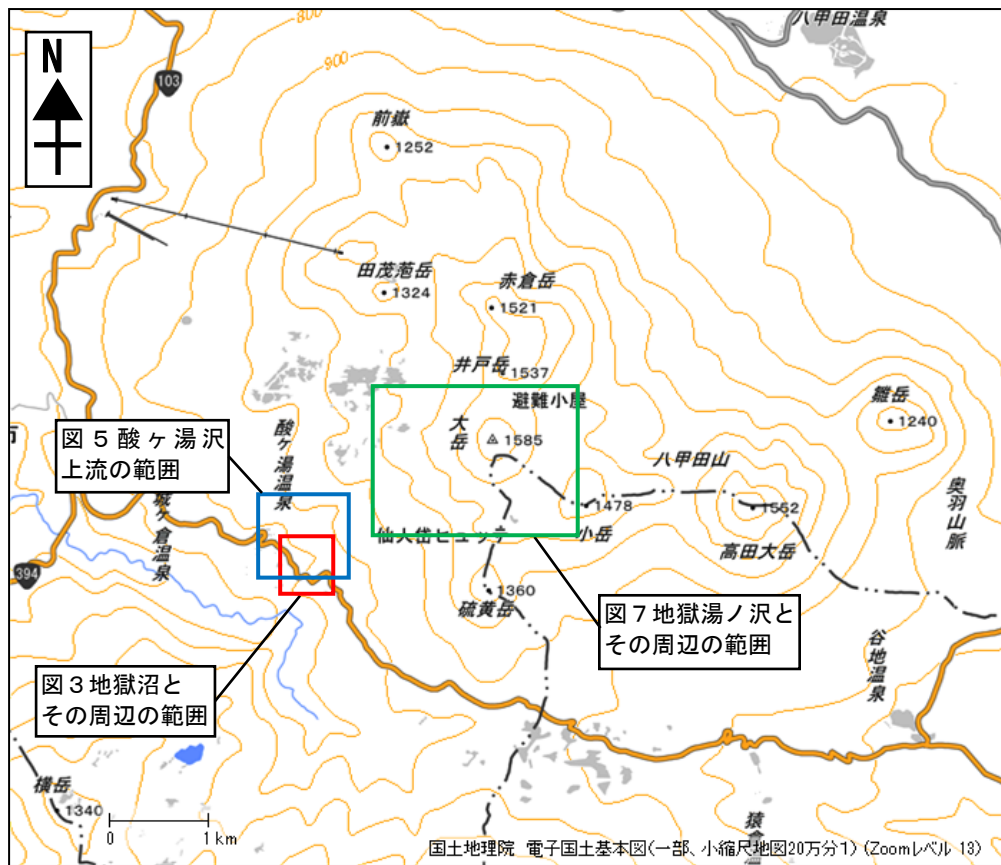


図2 八甲田山 周辺の地形図

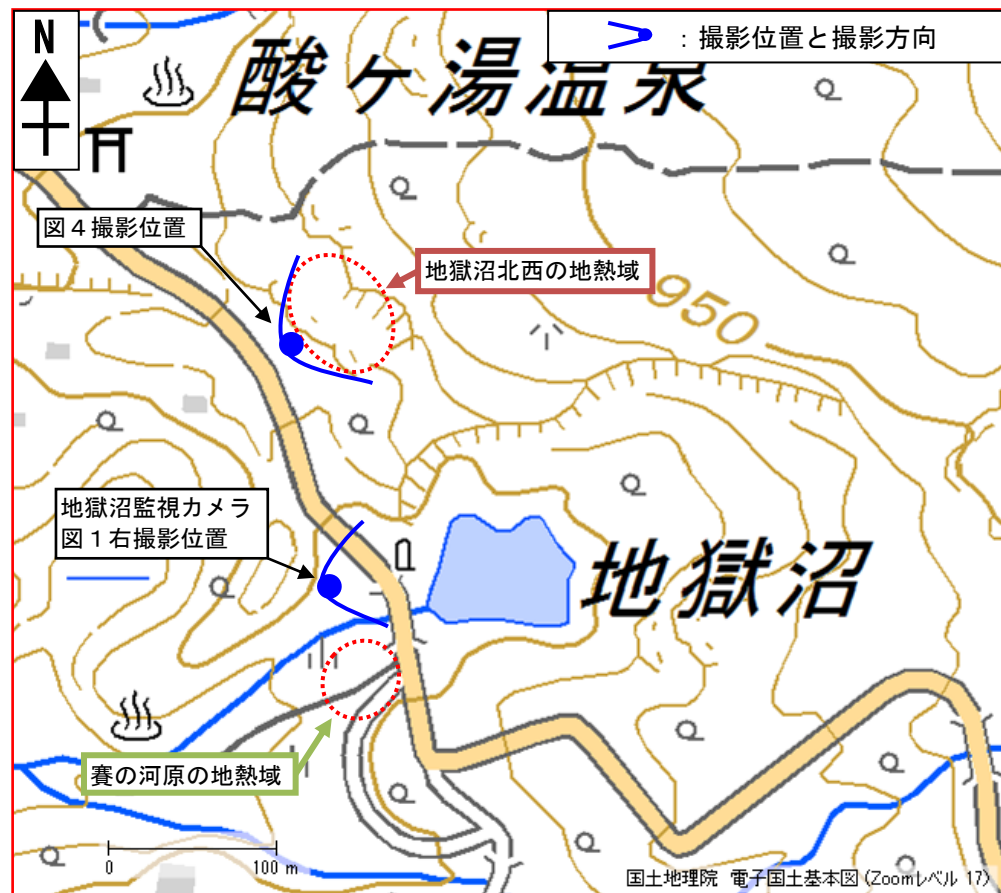


図3 八甲田山 地獄沼及びその周辺の写真と地表面温度分布撮影位置、撮影方向

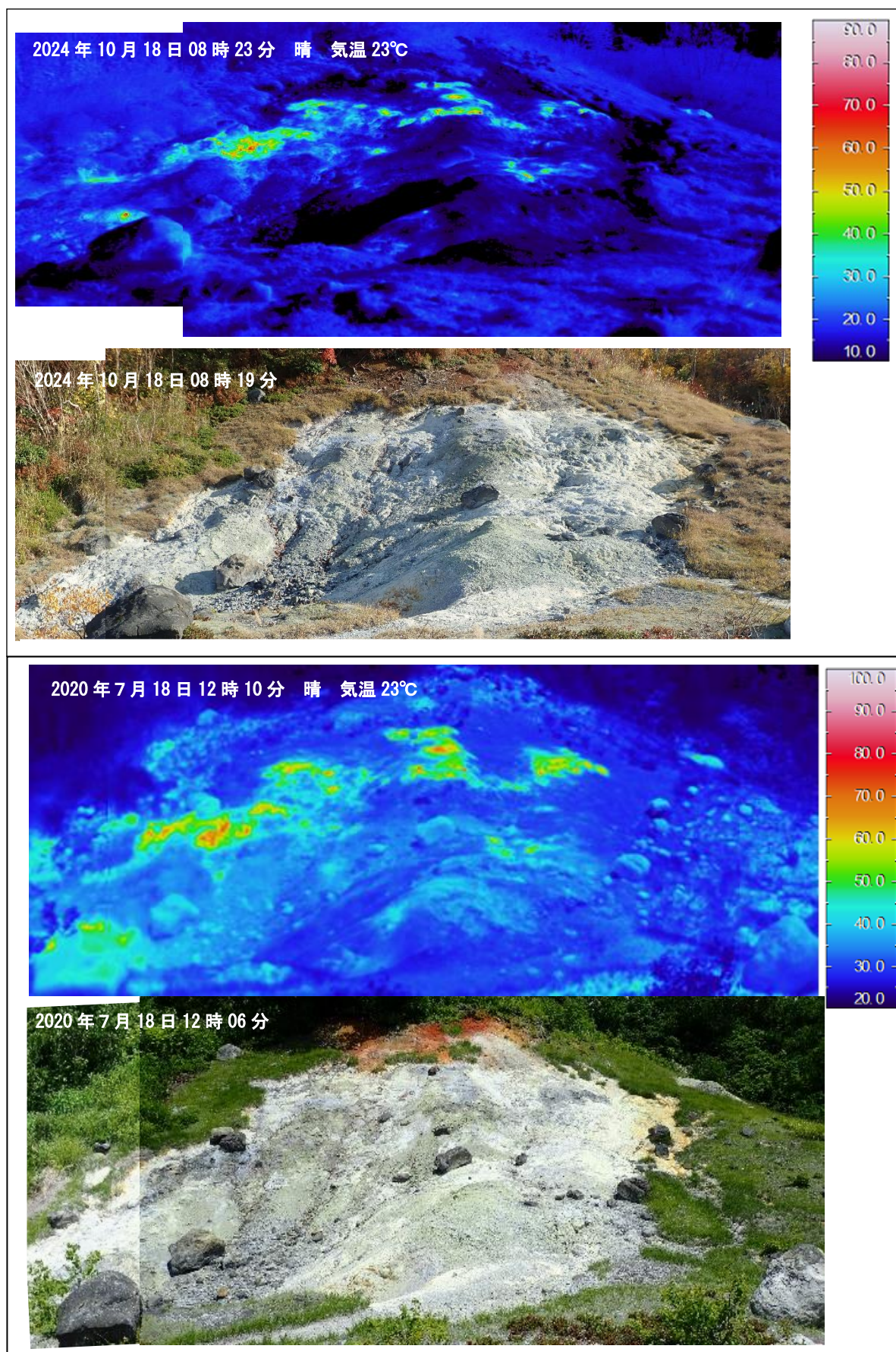


図4 八甲田山 南西方向から撮影した地獄沼北西の地熱域の状況と地表面温度分布

※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものです。

前回（2020年7月18日）と比較して、地熱域の分布に特段の変化は認められませんでした。



図5 八甲田山 酸ヶ湯沢上流の写真と地表面温度分布撮影位置及び撮影方向

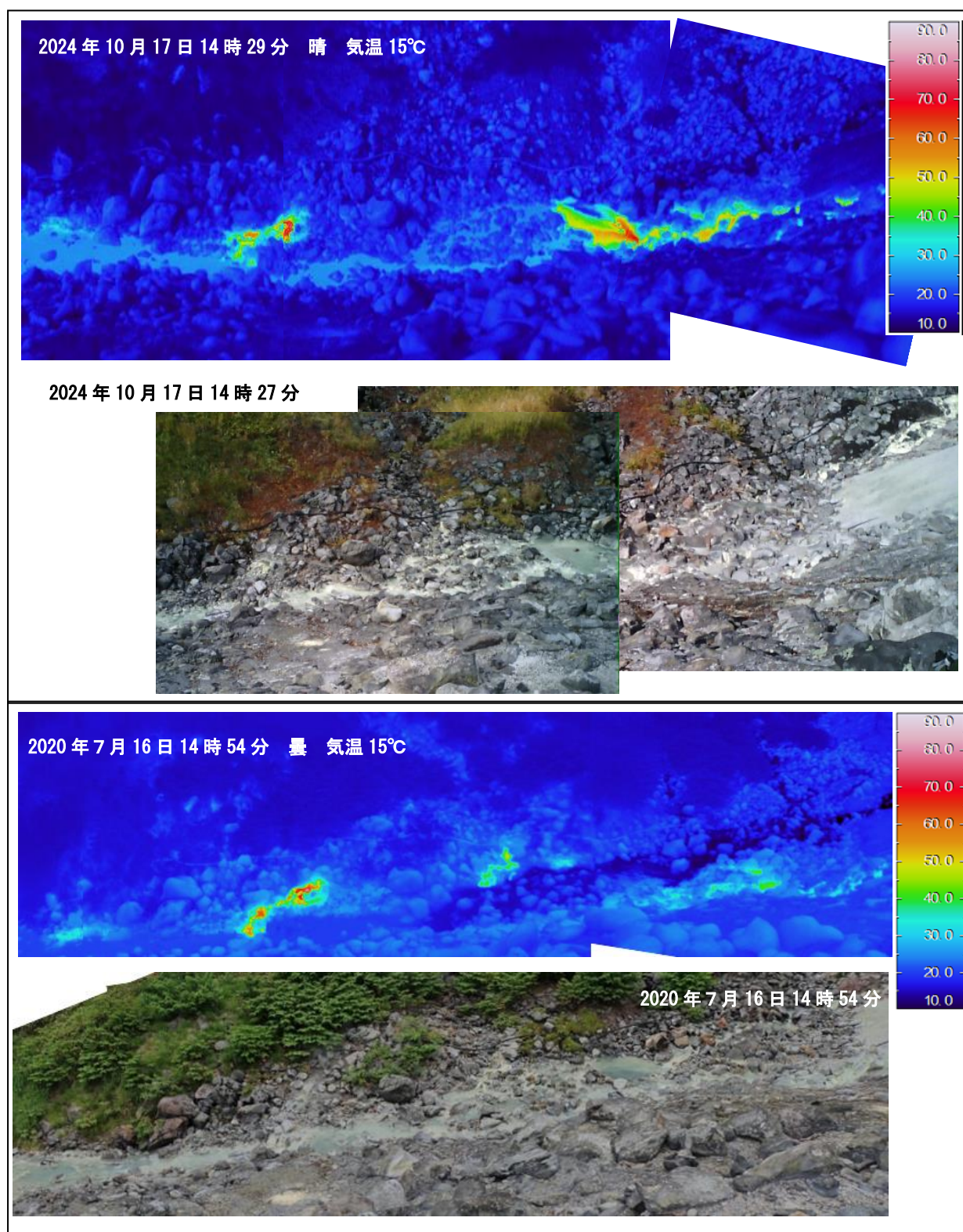


図6 八甲田山 南東方向から撮影した酸ヶ湯沢上流（右岸）の状況と地表面温度分布

前回（2020年7月16日）と比較して、地熱域の分布に特段の変化は認められませんでした。引き続き硫化水素が発生していることを確認しました。

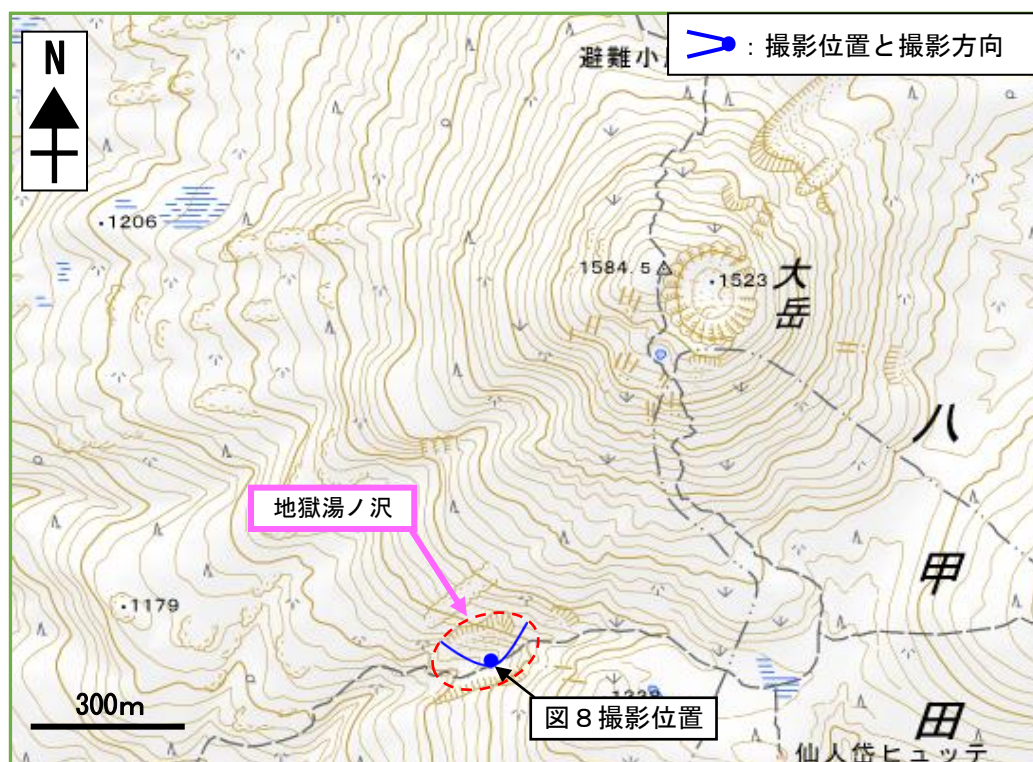


図7 八甲田山 地獄湯ノ沢及びその周辺の写真と地表面温度分布撮影位置、撮影方向

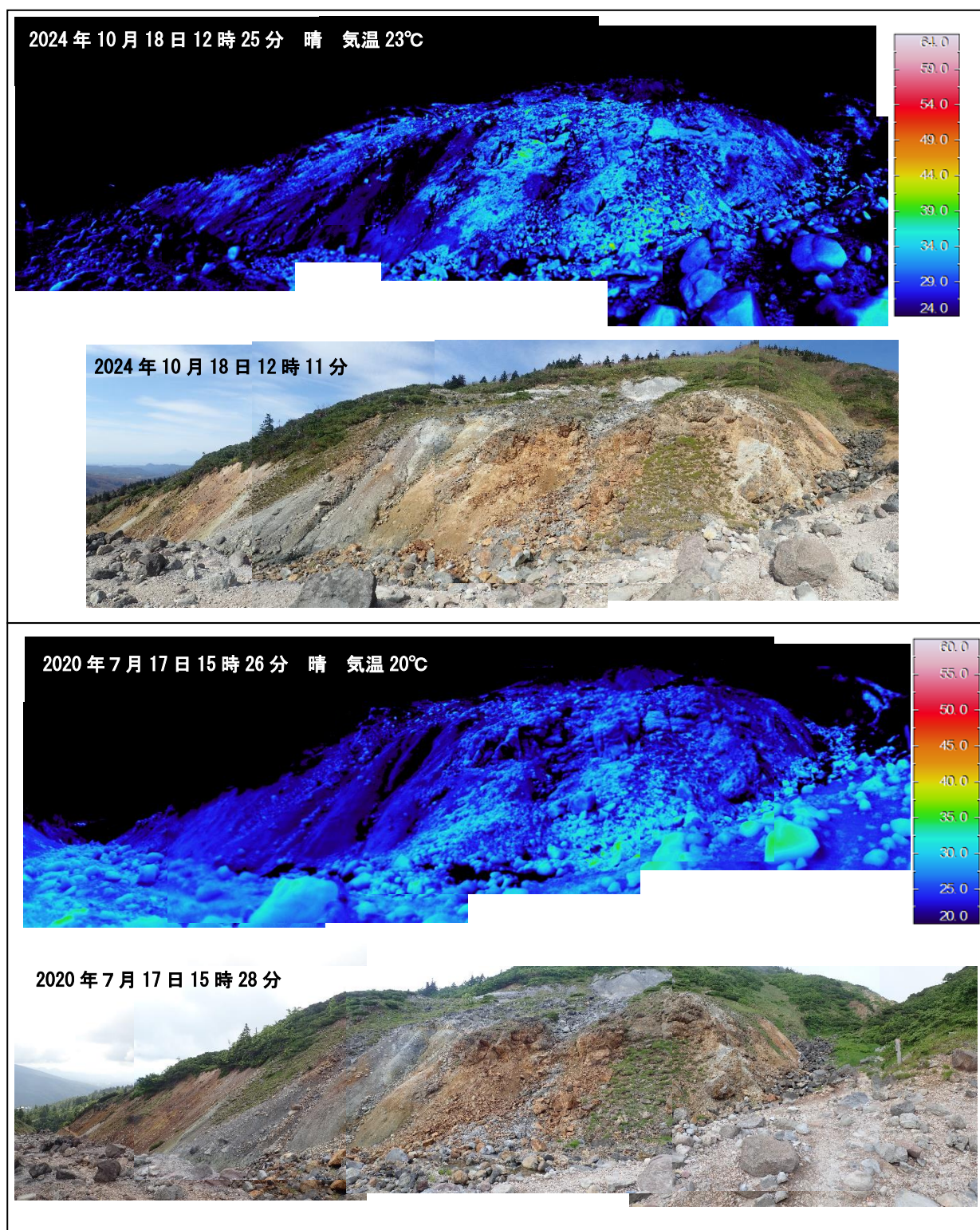


図8 八甲田山 南方向から撮影した地獄湯ノ沢（右岸）の状況と地表面温度分布

※温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものです。

前回（2020 年 7 月 17 日）の観測と比較して、引き続き地熱域は認められませんでした。
引き続き硫化水素が発生していることを確認しました。

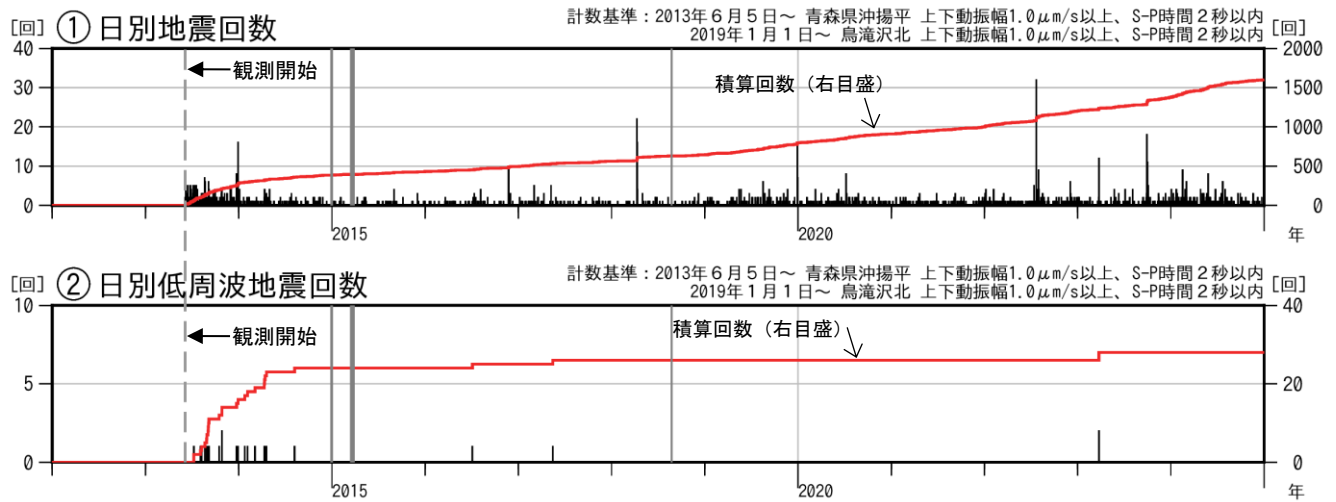


図9 八甲田山 地震回数 (2013年6月～2024年12月)

・灰色部分は欠測を表しています。

火山活動は少ない状態で経過しました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

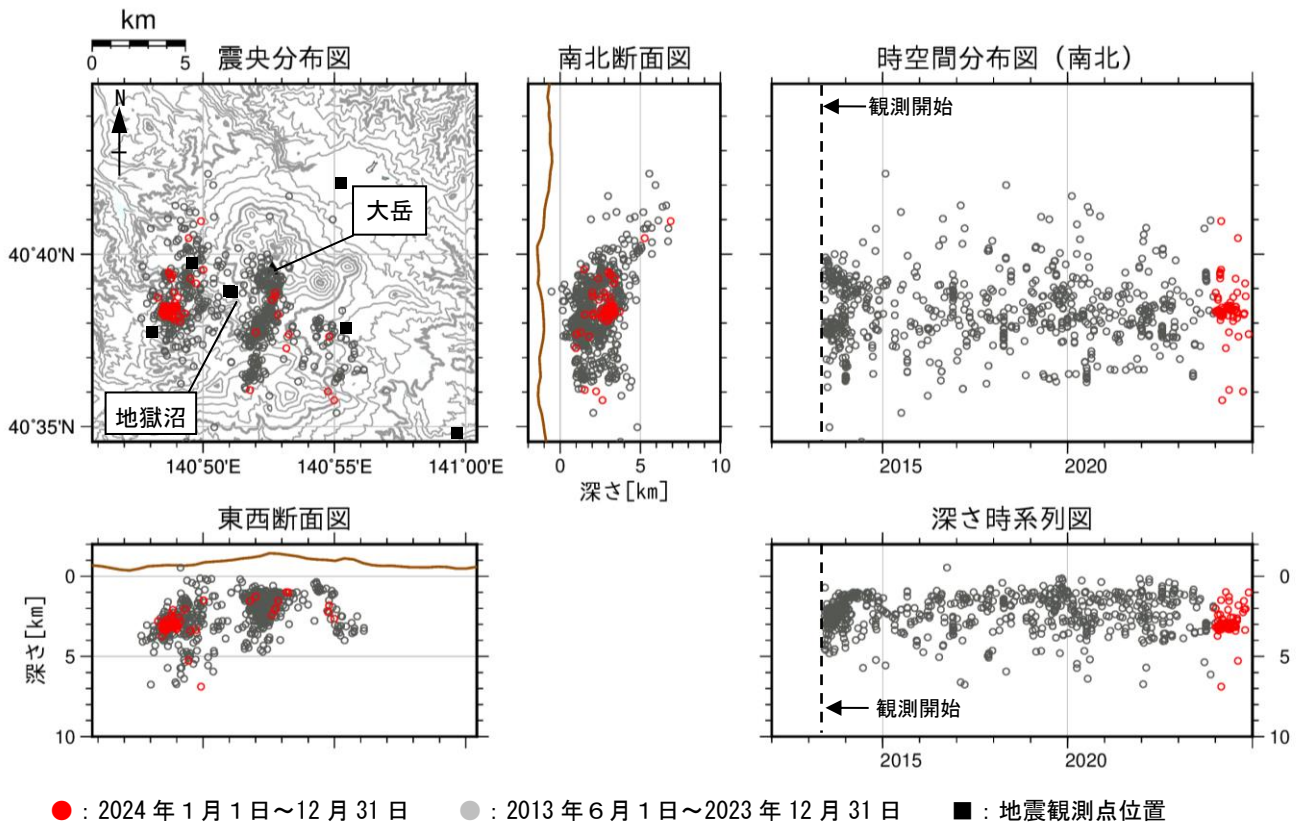


図10 八甲田山 地震活動 (2013年6月～2024年12月)

今期間、震源の求まった火山性地震は主に大岳山頂の西約5kmで発生しました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

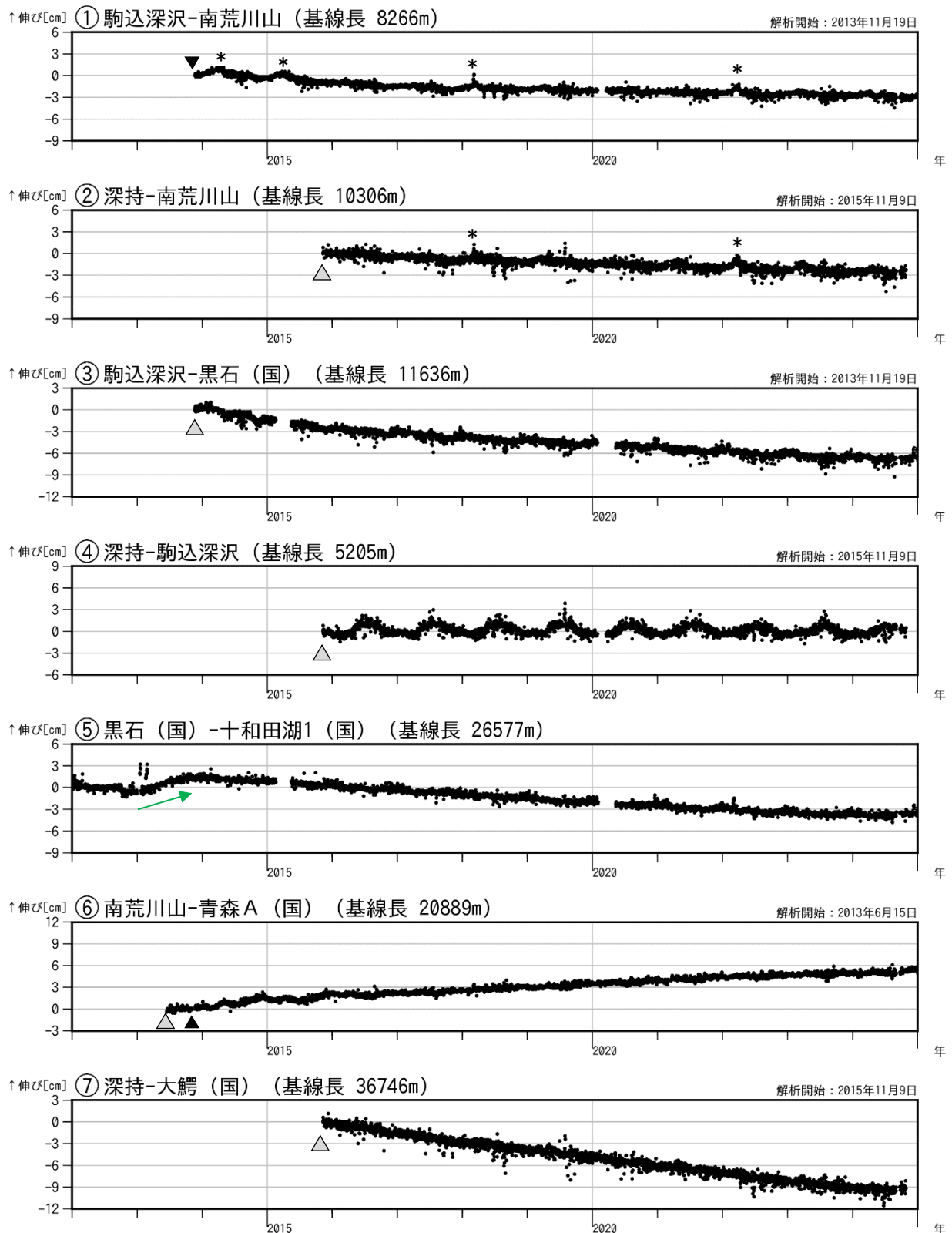


図 11 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2012 年 1 月～2024 年 12 月)

- ・①～⑦は図 13 の GNSS 基線①～⑦に対応しています。・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ・システム更新に伴う調整のため、一部の過去データにステップ状の変化がみられています。
- ▼▲：2013 年 11 月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました。
- ▲：解析開始を示します。
- *：南荒川山観測点における積雪等の影響による変化とみられ、火山活動に起因するものではないと考えられます。

2013 年の地震活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されましたが、現在火山活動によると考えられる変化は認められていません。

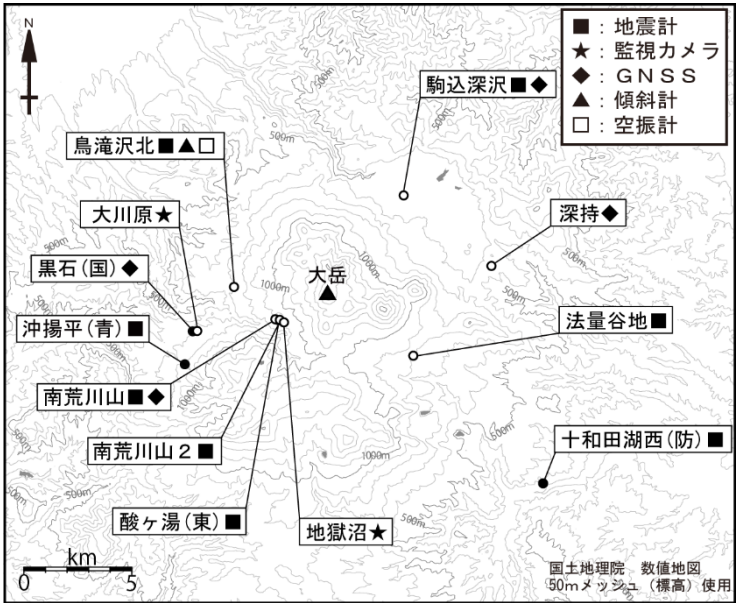


図12 八甲田山 観測点配置図
白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院 (東)：東北大学 (防)：防災科学技術研究所 (青)：青森県

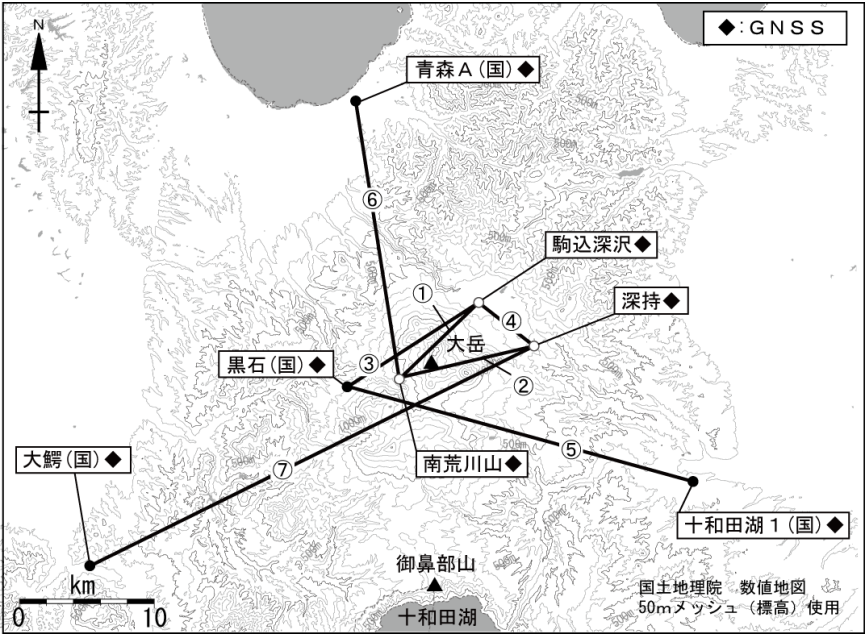


図13 八甲田山 GNSS 観測基線図
白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院

表1 八甲田山 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		北緯	東経	標高 (m)			
地震計	駒込深沢	40° 42.01'	140° 55.12'	573	-1	2013.08.02	臨時観測点
	法量谷地	40° 38.00'	140° 55.45'	792	-1	2013.11.01	臨時観測点
	南荒川山	40° 38.92'	140° 50.91'	887	-1	2013.11.20	臨時観測点
	鳥滝沢北	40° 39.72'	140° 49.55'	708	-87	2016.12.01	
	南荒川山2	40° 38.90'	140° 51.06'	898	-2	2016.12.01	広帯域地震計
空振計	鳥滝沢北	40° 39.72'	140° 49.55'	708	7	2016.12.01	
傾斜計	鳥滝沢北	40° 39.72'	140° 49.55'	708	-87	2016.12.01	
GNSS	南荒川山	40° 38.92'	140° 50.91'	887	8	2013.06.15	臨時観測点
	駒込深沢	40° 42.01'	140° 55.12'	573	8	2013.11.19	臨時観測点
	深持	40° 40.24'	140° 58.02'	668	7	2016.12.01	
監視カメラ	大川原	40° 38.62'	140° 48.35'	710	5	2016.12.01	
	地獄沼	40° 38.83'	140° 51.20'	898	8	2016.12.01	